

幼児対象の社会性と情動の学習 (SEL-8N) プログラムの実践効果 —保護者評定を含めた検討—

○山田洋平 (島根県立大学短期大学部)

小泉令三 (福岡教育大学)

キーワード: 社会性と情動の学習, 幼児, 心理教育プログラム

問題・目的

山田・小泉 (2015) では, 幼児対象の SEL プログラム (Social and Emotional Learning of 8 Abilities at Nursery School ; 以下, SEL-8N) の実践効果を検証した結果, 教師評定により幼児の社会性の肯定的変化が示された。しかし, 統制群を設定しなかったため, 幼児の肯定的変化が発達の変化である可能性が残った。また, 園生活以外での行動の変化については検討がなされていない。そこで本研究では, 幼稚園児の社会性における幼児対象の SEL-8N の実践効果を, 実験群と統制群との比較 (研究 1) および親評定による検討 (研究 2) を行うことを目的とする。

研究 1 教師評定による効果検討

方 法

調査対象者と評定者: 実験群は A 県内私立幼稚園 1 園の年中・年長学級 8 学級の幼児 258 名 (年中児 124 名, 年長児 134 名), 評定者は学級担任 8 名。統制群は A 県内同系列の別の私立幼稚園 1 園の年中・年長学級 8 学級の幼児 260 名 (年中児 129 名, 年長児 131 名), 学級担任 8 名が評価者。調査時期: pre 調査を 2016 年 7 月, post 調査を翌年 2 月に実施。調査内容: 子どもの強さと困難さアンケート (以下, SDQ) (Matsuishi et al., 2008), 5 因子各 5 項目の計 25 項目。実施内容: 2016 年 7 月～翌年 2 月に計 13 回の SEL-8N (1 回の活動は 15 ～20 分程度) を実験群の幼児全員を対象に実施。

結果・考察

SDQ 各因子の変化量 (post 調査-pre 調査) 得点を算出し, 群間差を t 検定により検討した結果, 困難さ尺度, 仲間関係の問題, 向社会性において有意差が見られた (Table1)。この結果から SEL-8N 実施による幼児の社会性の改善が示された。特に, 他者とのかかわりによる肯定的な変化が示された。

研究 2 保護者評定による効果検討

方 法

評定者: 実験群の保護者 19 名 (年中 10 名, 年長 9 名)。調査時期と調査内容: 研究 1 と同様。

結果・考察

SDQ の各因子得点 (総和得点) を算出し, 時期について t 検定を行った結果, 困難さ尺度, 情緒の問題, 仲間関係の問題, 向社会性において有意差 (有意傾向を含む) が見られた (Table2)。

総 合 考 察

研究 1 では, 教師評定による統制群との比較によって, 特に他者とのかかわりに関する SEL-8N の実践効果が示された。研究 2 では, 保護者評定を行い, SEL-8N によって獲得した社会性が園の生活以外でも定着している可能性が示された。研究 2 では研究 1 で効果を示した因子に加えて, 体調不良や心配事の多さなど幼児の内的状態を示す情緒の問題での効果が示された。この結果については, 本研究での実践効果が, 長い間幼児の様子を観察している保護者にしか気づかない僅かな効果であった可能性が考えられる。

今後は統制群の保護者評定を加えた検討の他, フォローアップ調査により SEL-8N 実施効果の維持や定着について検討したい。

引 用 文 献

- Matsuishi et al. (2008). Scale properties of the Japanese version of the Strengths and Difficulties Questionnaire (SDQ): a study of infant and school children in community samples. *Brain and Development*, 30, 410-415.
- 山田洋平・小泉令三 (2015). 幼児版社会性と情動の学習 (SEL-8N) プログラムの実践効果—SDQ アンケートを用いた検討— 日本教育心理学会総会発表論文集, 57, 513.

Table1 教師評定 (変化量) の記述統計及び t 検定結果

	実験群 ($n=258$)		統制群 ($n=260$)		$t(516)$	効果量 r
	M	SD	M	SD		
A: 困難さ	-2.81	(4.81)	-1.95	(4.27)	2.16 *	.10 無
B: 行為の問題	-.36	(1.30)	-.27	(1.39)	.75 <i>n.s.</i>	.03 無
C: 多動・不注意	-.70	(1.95)	-.57	(1.90)	.78 <i>n.s.</i>	.04 無
D: 情緒の問題	-.76	(1.73)	-.55	(2.07)	1.24 <i>n.s.</i>	.06 無
E: 仲間関係の問題	-.99	(1.56)	-.55	(1.70)	3.03 **	.13 小
F: 向社会性	1.17	(2.19)	.47	(2.20)	3.63 ***	.16 小

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$

Table2 保護者評の記述統計及び t 検定結果

	pre		post		$t(18)$	効果量 r
	M	SD	M	SD		
A	9.32	(3.80)	7.47	(3.67)	3.36 **	.62 大
B	1.53	(1.12)	1.37	(1.57)	.53 <i>n.s.</i>	.12 小
C	3.79	(2.02)	3.53	(2.06)	.89 <i>n.s.</i>	.21 小
D	2.26	(2.40)	1.37	(1.42)	2.39 *	.49 中
E	1.74	(.99)	1.21	(1.27)	2.04 +	.43 中
F	6.53	(1.26)	7.58	(1.68)	3.39 **	.63 大

*** $p<.001$, ** $p<.01$, * $p<.05$, + $p<.10$

※向社会性得点は高いほど適応的, それ以外の4つの下位尺度および困難さ尺度得点は低いほど適応的であることを意味する。